

スキー選手がスキー産業に与える影響

The influence that ski race has on ski industry

1K10C202-8 眞田 ひばり

主査 中村好男 先生

副査 宮内孝知 先生

【目的】

「スキーブームが訪れた 1993 年はスキー人口が 1700 万人であった。」(レジャー白書 2000 年調べ)その背景として週休 2 日制の一般化、スキー用品の低価格化、企業の多角経営によるスキー産業への参入(不動産、スキー場開発)、各高速道路、東北、上越新幹線などの交通網の整備などと言われている。屋内スキー場として日本最大であった、ららぽーとスキードーム SSAWS も開業し、ブーム終焉後の 2002 年に閉鎖された。

スキー産業の現状としては、「2012 年の時点で、760 万人」(レジャー白書 2013 調べ)までに減少した。その背景として、バブルの崩壊、1990 年代から慢性的に続く暖冬傾向による雪不足、「それに伴いスキー場も約 2 割減少。」2000 年代後半以降減少度合いは穏やかになってきているが、客層の中心は中高年であり、若者のスキー離れは依然歯止めがかかっていない現状だと言われている。スキー産業の動向と展望に関連した研究は数々なされているが、スキー選手を用いた研究は従来なされてこなかった。

スキー産業の低迷を打開するよう、競技者の現状、業界低迷の意識調査を行いスキー選手の現状を把握する。また若者のスキー離れの原因を把握し、競技者の視点から改善策を考え、打開策を考える

【方法】

スキー選手の現状を把握する為に、企業に所属して競技を行う社会人選手 3 名にインタビュー調査を行う。若者のスキー離れの現状を把握する為に、早稲田大学の学生 18 歳から 23 歳の男女 50 人を対象にアンケート調査を行う。

【結果】

アンケートに答えていただいた学生のうち、半数以上の人がスキー・スノーボードの経験があるということだった。はじめたきっかけは「親の影響」という回答が 49%と 1 番高い結果となった。スキーブームを経験した 40 代から後の年代の影響が大きいことが分かる。学校の行事でスキーを経験している割合も多くなったが、46%がその後スキー場に行く機会が減ったという結果になった。減ったという回答に多かった理由が「金銭的な問題」であった。「1 回のスキーにかかる費用は 11,950 円であり、参加人口の多いスポーツと比較するとかなり割高になっていることが分かる。」参加人口が多いマラソン、サッカー、水泳などのスポーツの「一回あたりの費用は 1,000 円以内に収まっている」(レジャー白書 2013 年調べ)レジャースポーツが抱える一番大きな問題はここにあるのではないだろうか。

22%の人がスキー・スノーボードを行ったことがないという結果が出た。その中で半数以上の人が今後スキー・スノーボードに行きたいという回答をした。これまで行わなかった理由として「機会がなかった」という回答が一番多くみられた。雪の降らない地域に住む人たちにとって、たくさんの道具を揃えなければならないことや、スキー関係の宣伝も少ない中でスキーに出掛けるというのはハードルの高いことなのかもしれない。

【考察】

スキー業界が活性化されることで日本の経済にも大きな影響を与えることができるのではないだろうか。交通、宿泊、スキー関連のメーカーなどたくさんの要素を巻き込みながら成されるのがレジャースポーツである。日本全体の経済の回復をあてにするのではなく、たくさんの要素を含んでいることを大きな利点として、スキー業界から日本の経済を動かせるだけの力を今後期待したい。